東日本大震災から４年
仮設住宅で追悼行事開催

１_黙とうを捧げる仮設住宅の入居者ら　２_東日本大震災と阪神淡路大震災の「3.11　1.17」を描いた竹灯籠に火を灯す参加者　３_ホップ和紙を使ったランプシェード作りを通じて入居者を元気づけた、遠野緑峰高校の生徒も参加　４_鎮魂の灯が輝いていました

仮設住宅・希望の郷「絆」の入居者や地域住民らは３月11日、東日本大震災の追悼行事「追悼　鎮魂の灯（あかり）」を行ない、犠牲者の冥福と早期復興を願いました。参加者は竹灯籠を囲み、午後２時46分のサイレンに合わせ黙とう。夜には、北海道の紋別社会福祉協議会から贈られたピースキャンドル、遠野緑峰高校の生徒と入居者らが一緒に作成したホップ和紙製のランプシェードに火を灯し、鎮魂の祈りを捧げました。大平トワさん（大槌町出身）は「仮設住宅の入居期限が迫っていることに不安を覚える」と明かしながらも、「生かされた命を大切にし、亡くなった人の分まで一歩一歩前向きに生きていきます」と誓いました。同日現在、本市に移住した被災者は115世帯281人で、仮設住宅には23世帯35人が暮らしています。

さださんの応援歌に感涙
復興支援コンサート開催

「さだまさし東日本大震災復興支援コンサート」（市主催）は３月９日、市民センター大ホールで開かれました。沿岸から招待された被災者や市民ら890人は、さださんの歌による熱いエールに胸を打たれました。さださんは、「BIRTHDAY（バースデイ）」や「いのちの理由」など数々の名曲を披露。復興支援に精力的に取り組んでいる自身のエピソードを紹介しながら、軽快なトークで観客の笑いと涙を誘いました。さださんは「このコンサートは、被災地のことを思っているたくさんの人の支援によって実現しました。その思いを歌に乗せ、皆さんを元気にするのが私の使命」と語りました。

さだまさしさんの歌声が会場に響きました

家族から祝福を受けるフクヱさん（中央）

家族らに見守られ誕生会
小友町のフクヱさん100歳

小友町の菊池フクヱさんの100歳を祝う会は２月27日、同町のふれあいホーム小友で開かれました。長男夫婦や施設利用者らが出席し、くす玉割りや記念品の贈呈などでフクヱさんの長寿を祝いました。温かい祝福にフクヱさんは「長生きできたのは、皆さんの支えのおかげです」と感謝しました。フクヱさんは、大正４年に同町に生まれ、19歳のときに近所だった亮悦（りょうえつ）さん（故人）と結婚。６人の子どもに恵まれ、農業に励みながら家庭を支えました。長寿の秘訣は、毎日３食必ず食べることだそうです。現在は、長男夫婦と３人で自宅で穏やかに過ごしています。

地域活動専門員日誌

地域づくりを応援！

活躍した児童生徒を表彰するのも地域づくりの一つです！

青笹地区センター
宮田　賢樹（かつしげ）さん

３月８日に青笹地区センターで開催された、青笹町地域づくり連絡協議会の総会の準備・運営に携わりました。昨年度に活躍した児童生徒などの表彰式のほか、青年海外協力協会遠野事務所の福寄順子（じゅんこ）さんによる、同協会が取り組む地域づくりの事例発表などを実施。参加者は、地域活性化の手法などについて理解を深めました。総会で出された意見などを踏まえ、人と人の絆を大切にした地域おこしに、これからも取り組みます。

みらい創りカレッジ通信

春キャンプで「ゴブリン」を作ろう！

４月25・26日の２日間、遠野みらい創りカレッジでは「春キャンプ」を開催します。今回は、本年度の活動説明のほか、森羅万象に宿る妖精「ゴブリン」を制作するワークショップを開催。また、「妖怪によるまちづくり」をテーマに対話形式でのワークショップも同時開催します。子どもから大人まで楽しめる内容を企画していますので、ぜひ、ご参加ください！
詳しくは、遠野みらい創りカレッジ（☎60-1276）まで。

自分だけのゴブリンを作ってみませんか？

１_寒さに負けず、小友町内を練り歩く参加者　２_来年開催される希望郷いわて国体の成功を祈願する市国体担当者　３_巌龍神社裏の岩肌がライトアップされ、伝統行事の厳かな雰囲気が引き立てられました

願い込め寒中を練り歩く
伝統の小友町裸参り開催

小友町裸参り（同保存会主催）は２月28日、同町の巌龍神社周辺で行われました。市内外の厄男、中学生、女性ら46人が参加。参加者はさらしとしめ縄を身にまとい、家内安全や無病息災などを祈願し練り歩きました。

参加者は、それぞれの願い事を書いた灯籠を片手に、同神社と大般若供養塔の間を３往復。350年以上続く伝統行事を一目見ようと、たくさんの観客が訪れました。厄男の松田克也（かつや）さん（40）＝同町＝は「裸参りを大切に後世に伝え、地域の活性化につなげていきたい」と意気込みを語りました。

１_朗読、舞踏、音楽が融合した幻想的な舞台　２_遠野語り部の会の菊池玉（たま）会長らによる昔話で開幕　３_下郷さんさ踊り（宮守町下宮守）　４_山口太鼓（宮古市）　５_氷口御祝（小友町）

朗読、舞踏、音楽の新境地
物語フェスティバル遠野

物語フェスティバル遠野（幸せ出ずる国いわて実行委員会・岩手日報社主催）は３月８日、市民センターで開かれました。

昔話や郷土芸能など伝統文化の魅力を伝えるため、文化庁の補助を受けて開催。第１部では、本市と宮古市の郷土芸能などが披露されました。第２部では、舞踏家で俳優の麿赤兒（まろあかじ）さんの『遠野物語』の朗読、津軽三味線奏者の上妻宏光（あづまひろみつ）さんらによる演奏、麿さん率いる舞踏集団「大駱駝艦（だいらくだかん）」の舞踏が融合した、幻想的な舞台が繰り広げられました。